

## I. 事業方針

昨年度は長い期間苦しめられたコロナ禍が終り、ようやく通常の事業運営に戻すことができた。コロナ禍で普及したオンラインミーティングを活用した効率の良い組織運営と従来の対面による“人と人が出会い語らうからこそ生まれる良さ”を組合せ、更に充実した活動を継続して展開していきたい。

弊会の活動の3本柱「国際競争力強化を視野に事業推進」「会員にとって魅力ある企画の実行」「次世代経営者・技術者育成事業」を更にブラッシュアップするとともに、事務局の運営体制を見直し「専務理事体制」を確立し円滑な事務局運営と会員に対する更なるサービス向上を目指していく。

「ギヤカレッジ」は昨年度、対面による従来の講義スタイルに戻し、受講生同士の交流の機会を増やすと共に内容の充実をはかった結果、受講生同士の絆が深り“同じ釜の飯を食った仲間”が生まれている。このネットワークは日本の歯車産業界を強固にすると確信する。設立時の志を忘れることなく日本歯車工業会のコア事業の継続発展に取り組む。

3つの研修会「経営研修会」「技術研修会」「若手経営者研究会」を集約した「研修委員会」では開催頻度を平準化するとともに充実した内容の研修会を開催できた。今年度も会員のニーズに合った研修会を開催するとともに、特に「若手経営者研究会」は次代を担う経営者のプラットフォームとして拡充していきたい。

「標準化委員会」では引き続きISO国際規格に深く関わりながら、JIS規格への整合事業を進める。

「海外調査・対応委員会」では本年度も海外視察を企画するとともに、昨年度、日本歯車工業会が台湾を訪問し交流を行った「台湾歯車協会」のメンバーがJMTOFに合わせ来日する予定に合わせて、弊会がホストとなり積極的な交流を行う企画を立案する。

「広報委員会」ではJGMA Newsの発行を含む広報活動を推進する。

「総務委員会」では専務理事体制の確立をサポートし、これまでの各種団体保険の加入促進、他工業団体との交流を深めていく。

会員各位にとって有益な工業会を目指し、産官学の連携を密にして今年度も事業に邁進していく所存である。

## Ⅱ. 実施事業

### 1. 研修会

歯車製造分野における高齢化に伴う後継者への技能伝承のために、次世代の経営者および技術者を対象として歯車に関する基礎教育を重点に支援を行う。また、会員同士の交流を深め、新たなビジネスチャンスを生み出すように事業を推進する。

#### 1.1 経営研修会

優良企業の見学会、並びに人材開発、教育、経営管理等の実例に基づいた改善活動事例の研修会を年3回開催予定。経営力・技術力の強化を目的とし、研修会を通して経営・技術上の有益な情報・知識を習得し、事業発展に生かす。

#### 1.2 技術研修会

大学教授、業界の第一線技術者より講師を選定し、目的に沿った演題を設定した歯車技術研究会（日本機械学会：歯車基礎技術講座）を日本機械学会と連携で年3回協賛開催する。

また、産学連携を推進することを目的に、講演や訪問を通じて大学などの研究機関との間で相互理解を深めるとともに活発な交流に繋げる。年2回実施予定。

#### 1.3 若手経営者研究会

次世代経営者（および候補者）による相互研鑽とネットワーク構築を目的とした歯車業界の技術者、経営者育成事業を推進する。年2回開催予定。

### 2. 人材育成・教育

企業の長期安定的な発展の基礎となる中核人材育成事業を実施する。産業技術の競争力向上、そのための技術力強化は歯車工業会の基本的なミッションの1つであり、次世代を担う技術者養成のための人材育成事業はその根幹にある。

#### 2.1 ギヤカレッジ企画運営委員会

歯車技術全般を学べるギヤカレッジの企画運営を行う。

##### (1) JGMA ギヤカレッジ マスターコース（基礎講座） 定員 30名

歯車の基礎（材料・熱処理等含む）・設計・製造に関する講義（必修）、体験により理解を深める現場実習（選択）から構成される。

(2) JGMA ギヤカレッジ プロフェッショナルコース（応用講座） 定員 20 名

応用に重点をおいた歯車の設計・製造・性能評価に関する講義（必修）とトラブルシューティング(破損歯車の原因究明とその対策)の講義・演習（選択）と現場体験実習（選択）から構成される。

## 2.2 ギヤカレッジフォローアップ企画運営委員会

JGMAギヤカレッジ修了生の更なるステップアップの場として、ギヤカレッジフォローアップ研修会を実施する。

修了生による自主運営を原則として、歯車技術者のネットワークづくりと技術力向上、現場の困りごと解決について考えることに重点を置き、ディスカッションを中心とした研修とする。

## 3. 規格・標準化事業

グローバル化が進む歯車業界における競争力強化に向けて、ISO規格の制定、改訂への積極的な関与がますます重要になる。日本歯車工業会は、永年に渡りISO/TC60(歯車専門委員会)において全ての事案への投票義務を負い、規格作りに積極的に参画してきたが、関係全WGへの出席は難しい面もあり、取捨選択を行い、必須WG(精度・用語、ベベル・ウォームギア、強度等)に出席する。

具体的には、JKA補助事業「国際競争力強化に資する標準化の推進」の実施。将来のISO国際会議出席者の育成を計るため、複数の委員を国際会議に派遣する。また委員会には、賛助会員である海外歯車加工機販売メーカーよりアドバイザーとして参加してもらい情報交流をしていくことにより各委員の歯車の世界的な技術動向に対する視野を広めていく。

## 4. 海外調査・対応事業

会員企業のグローバル対応を視野に、海外の展示会（EMOやIMTS等）への参加や企業訪問を主な目的とした海外視察や欧州、米国およびアジア各国の歯車業界（および機関）との交流を推進する。

2024年度の視察先は下記を検討中

日 時：2024年9月～10月の約1週間

場 所：アジア圏

内 容：歯車関連企業視察

## 5. その他

### 5.1 生産性向上設備投資促進

産業競争力強化法（平成25年法律第98号）の規定に基づく先端設備に該当する旨の証明書を発行する団体として、引き続き、証明書発行サービス等の事業を行う。

### 5.2 広報委員会

#### 5.2.1 歯車関連製品に関する生産、流通等の調査

会員企業並びに歯車産業界における、歯車関連製品の生産動向並びに需要先別調査を継続して行い、業界動向を把握し、データ解析のうえ企業経営の一助として情報を提供する。

#### 5.2.2 広報・PR事業

工業会の活動状況等の情報を会員企業や学術教育研究機関、マスコミ、シンクタンク等にホームページや機関誌等で提供することにより、関連企業及び分野に広く情報を発信していく。

#### 5.2.3 機関誌の発行並びにホームページの充実

機関誌「JGMA News」（年2回）を継続発行し、歯車産業に関する各種最新情報及び話題、関連業界の動向、経済産業省の各種施策、工業会活動報告等を広く情報を提供していく。

また、会員情報や書籍販売、各種統計等の最新情報をホームページに随時更新する。

### 5.3 総務委員会

#### 5.3.1 各種団体保険の加入促進

当会にて従来から制度化している「団体PL保険」並びに「団体生命保険」について、さらに多くの会員企業に有効的に活用していただくため、加入促進活動を行う。

両制度の継続と規模メリットを享受していただくため、今後も活動を強化していく。

#### 5.3.2 他工業団体との交流・連携

当会は日本機械工業連合会、機械振興協会、日本工作機械関連協議会の団体会員とし、定期会合や委員会等に参加するとともに最新業界情報等の共有を行い、交流を深める。

以上